

「裏切り」ヨハネ18：15～18、25～27

I 導入部

おはようございます。3月の第三日曜日を迎えました。こうして会堂までに無事に来られた方々と、このように共に礼拝をささげることができますことを感謝致します。ライブ礼拝で、ご自宅等で、礼拝をささげておられる方々も守られていることを思います。ご家庭で、聖書を開き、祈りをささげておられる方々の上にも、主のお守りがあることを祈ります。

新型コロナウイルスの感染拡大が、終息しない状況の中、学校を休んでいる子どもたちも親も、働いておられる方々も、医師や看護師の方々も、みんな疲れが溜まり、それぞれに先の見えない状況で、教育も経済も、日々の生活も不安と恐怖で日々を過ごしています。

そのような中であっても、私たち救い主イエス・キリスト様を信じる者は、自分自身や状況だけを見るのではなく、歴史を支配し、全てを支配しておられる生けるまことの神様に、この不安な状況から助け出し、平穏な日々を送ることができるように祈ることができますこと、この神様にお委ねし、信頼できますことを感謝致します。

礼拝に来ることができない方々のために、ライブ礼拝を始められる牧師先生方や教会があるようです。このような環境が、普段ライブ礼拝を実行できない教会には、決断し、実行できているようです。礼拝に来ることのできない信徒の方々のためではありますが、神様を知らない人々が、普段神様に見向きもしない人々が、新型コロナウイルスの感染拡大の恐れで、礼拝のライブを通して、神様に目が向けられ、福音に触れることができること、神様を信じるきっかけになることができることを祈ります。

今日は、ヨハネによる福音書18章15節から18節と25節から27節を通して、「裏切り」という題で、お話し致します。

II 本論部

一、イエス様と深い関係がある

最後の晩餐の席で、イエス様は、12弟子たちの足を一人ひとり丁寧に洗われました。主であるイエス様が僕のように、弟子たちの足を洗われました。イエス様への裏切りを決意していたユダの足をイエス様は、他の弟子たち以上に丁寧に、愛をこめて洗われたように感じます。ユダの裏切りに対する最後の悔い改めの機会をイエス様は与えられたように思います。イエス様は、ご自分を裏切ろうとしている者は、「わたしがパン切れを浸して与えるのがその人だ」（ヨハネ13:26）と言われて、ユダにパン切れを浸して渡されました。すると、サタンが彼の中に入った、と聖書は告げています。そして、イエス様はユダに、「しようとしていることを、今すぐ、しなさい」（ヨハネ13:27）と言われたのでした。ユダは出て行き、イエス様を引き渡す備えをすることになるのです。ユダが出て行った後、イエス様は11弟子

たちに、新しい戒め、「互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも愛し合いなさい。」という言葉を語られたのです。

イエス様が、「互いに愛し合いなさい」と言われて、ペトロはイエス様がどこかへ行ってしまうような気がしたのでしょうか。「主よ、どこへ行かれるのですか」と問います。イエス様は、「わたしの行く所に、あなたは今ついて来ることはできないが、後について来ることになる。」(ヨハネ 13:36)と言われました。ペトロはイエス様を心から愛していたので、「なぜ今ついて行けなのですか。」と問い、ここで「あなたのためなら命を捨てます」と言ったのです。福音書は、このペトロの言葉「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」(ルカ 22:33)、「たとえ、みんながあなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません。」(マタイ 26:33)、「たとえ、みんながつまずいても、わたしはつまずきません。」(マルコ 14:29)と伝えています。

ペトロは後について行くのは嫌なのです。今ついて行きたいのです。イエス様から離れたくないということです。そのようなペトロのイエス様に対する「あなたのためなら命を捨てます」という言葉は真実であったと思います。リップービスでもなかったでしょう。口から出まかせでもありませんでした。本当に、ペトロはイエス様のためならば、イエス様を守るためならば、自分の命を捨てることも覚悟していたのです。3年と少しの間、毎日イエス様と寝食を共にし、イエス様の言葉を聞き、イエス様のなさるみ業を見て来た。日を重ねるたびに、イエス様の弟子であることをうれしく感じ、自慢でもあったのです。「イエス様のそばにはペトロあり」、と言われるほどに、ペトロはいつもイエス様のそばにいたのです。ペトロは、イエス様との関係、師匠と弟子の関係を喜び、イエス様に仕えることのできる喜びを経験していたのです。私たちも、イエス様の十字架と復活のゆえに、罪赦され、魂が救われ、死んでも生きる復活の命が与えられているというイエス様との特別の関係にあることを感謝したいと思うのです。

二、何とか頑張ったペトロ

ペトロの「あなたのためなら命を捨てます」という言葉を聞いて、イエス様は言われました。「イエスは答えられた。「わたしのために命を捨てると言うのか。はっきり言っておく。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしのことを知らないと言うだろう。」(ヨハネ 13:38)

イエス様は、ペトロがイエス様の事を知らないと言ったので、1度ならずも、3度も知らないと言われたのです。それは、ペトロにとっては、衝撃的な言葉でした。ですから「たとえ、御一緒に死なねばならなくなっても、あなたのことを知らないなどは決して申しません。」(マルコ 14:31、マタイ 26:35)とマタイとマルコによる福音書は伝えています。

最後の晩餐の後、弟子たちとゲッセマネの園に行き、そこで祈られました。そこへイスカリオテのユダが兵士や祭司長やファリサイ派の人々が遣わした下役と共にやって来て、口づけによってイエス様を裏切ったのです。

今日の説教題は、「裏切り」という題ですから、普通ならユダと言えるでしょう。ユダは、自分が描いていた救い主とイエス様との行動にあまりにもギャップがあり、イエス様に失望して、また、自分が財布を預かっており、そのお金をごまかしてもいたので、銀貨30枚

の約束で、お金に目がくらみイエス様を裏切ったのです。それは、綿密に計画的されたことであり、自己満足の結果であったように感じるのです。

ペトロは、ユダと一軍団が来てイエス様を捕えようとしているのを見て、剣を抜いて、大祭司の手下に打ってかかり、マルコスという人の耳を切り落として抵抗したのです。「あなたのためなら命を捨てます」と言っただけのことはあります。イエス様が捕らえられると弟子たちは逃げてしまいます。「弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げてしまった。」(マタイ 26:56、マルコ 14:50) と聖書は告げています。

しかし、ヨハネによる福音書は、18章15節で、「シモン・ペトロともう一人の弟子は、イエスに従った。」と語ります。もう一人の弟子とは、ヨハネではないかと言われています。ペトロは、「たとえ、みんながあなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません。」と言いましたが、9人の弟子たちは逃げましたが、ペトロはイエス様の裁判が行われている大祭司の中庭にペトロも口利きで入ることができたのです。敵の中に潜り込んだと言えるでしょう。その時、門番の女中が、「あなたも、あの人の弟子の一人ではありませんか。」と尋ねたのです。普段ならば、「あの人の弟子の一人ですね」と尋ねられたら、大きな顔をして、「はい、私は、あの人イエス様の一番弟子です。」と答えたはずです。イエス様の弟子だ、と人々に言われること、認められることがペトロにとっては、大きな喜びでしたから。

しかし、敵の中ですから、向こうではイエス様が犯罪人として裁かれている状況で、「あなたも、あの人の弟子の一人ではありませんか。」と尋ねられて、ペトロは、「違う」と答えたのです。ペトロは、「たとえ、みんながあなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません。」と言いましたが、とっさのことで、動揺して「違う」と言ってしまったのでしょうか。そこで、話は終わりました。ペトロは、ここで何か。雲行きが危うくなってきた、と中庭から出ることもできましたが、彼は、イエス様の事が、裁判の事が気になったのでしょうか。中庭を出ることなく、逃げることなくとどまったのです。

ペトロは恐ろしかったでしょう。「あなたも、あの人の弟子の一人ではありませんか。」と言われて、イエス様のそばにいつもいたことがばれている。できるならば、逃げ出したかったかも知れません。しかし、ペトロは、イエス様の事が心配で、恐れで満たされながらも、そこに、何とかとどまり続けたのです。イエス様は、このペトロの頑張り、ペトロの精一杯の行動を感じ、知っておられたように感じるのです。私たちも、信仰生活の中で、イエス様をなかなか証できない状況の中で、自分なりに、何とか頑張っていること、少しでも努力していることなど、誰もわからないでしょう。しかし、イエス様は知っていて下さるのです。

三、裏切る者をも愛して下さるイエス様

ペトロは、火にあたっていました。すると、同じように火にあたっていた人々が、「お前もあの男の弟子の一人ではないのか」と尋ねるとペトロは、打ち消して「違う」と言っただけです。イエス様の弟子であることの喜び、イエス様との深い関係にあることの喜びに満たされていたのですが、この時は、イエス様との関係、弟子であることの間接的な関係を打ち消したので、「違う」と断言したのです。ここでも、ペトロは逃げませんでした。

26節を共に読みましょう。「大祭司の僕の一人で、ペトロに片方の耳を切り落とされた人の身内の者が言った。「園であの男と一緒にいるのを、わたしに見られたではないか。」ペトロは、「あなたのためなら命を捨てます」と言って、イエス様が捕らえられようとした時、剣を抜いて大祭司の手下マルコスという人の耳を切り落としました。マルコスの身内の人がここいたのです。そして、「園であの男と一緒にいるのを、わたしに見られたではないか。」とペトロのしたことを何もかも見ていた人が証言したのです。相棒の杉下右京さんがよく言うセリフ「動かぬ証拠」を突きつけられたのです。

グーの根も出ない動かぬ証拠を突きつけられたペトロでしたが、「違う、知らない。」と打ち消したのです。すると、すぐ、鶏が鳴いたのです。ヨハネによる福音書には記されていないのですが、「ペトロは、「鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われたイエスの言葉を思い出した。そして外に出て、激しく泣いた。」(マタイ 26:75)、「ペトロは、「ペトロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」とイエスが言われた言葉を思い出して、いきなり泣きだした。」(マルコ 14:72)、「ペトロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われた主の言葉を思い出した。そして外に出て、激しく泣いた。」(ルカ 22:61-62)と他の福音書記者は記していません。

ペトロは、自分が愛していたイエス様、師であるお方、大切なイエス様との関係を否定したのです。「わたしのために命を捨てると言うのか。はっきり言っておく。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしのことを知らないと言うだろう。」とイエス様に言われて、「たとえ、みんながあなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません。」「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております。」「あなたのためなら命を捨てます」と誓いながら、イエス様の事を3度も否定してしまったのです。鶏の鳴き声に、「ペトロは、「今日、鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うだろう」と言われた主の言葉を思い出した。そして外に出て、激しく泣いた。」のです。自分の事が情けなくて、自分の弱さがわかり、自分の力に頼ることがいかに愚かな事であるかを知ったのです。

ルカによる福音書22章61節には、「主は振り向いてペトロを見つめられた。」とあります。3度イエス様を知らないと否定し、鶏が鳴いた時、イエス様は振り向いてペトロを見つめたのです。それは、ペトロの裏切りの行為に恨んで見つめられたのではなく、激しく泣いているペトロを見つめ、「大丈夫だよ」とその目が語っていたように思うのです。

イエス様は、私たちが罪を犯した時、責められるのではなく、その罪のためになされた神様の恵みを見るように示して下さるお方です。私たち自身がどのようにしても解決できない罪の問題を、イエス様が十字架で私たちの罪の身代わりに裁かれ、尊い血を流し、命をささげて下さり、死んでよみがえられたのです。そのことによって、私たちの過去、現在、未来の罪を赦し、魂に救いを与え、死んでも生きる命、永遠の命、復活の望み、天国の望みを与えて下さったのです。私たちは、自分の失敗や弱さ、罪に目を留め、嘆くのではなくて、イエス様の十字架と復活を通して、罪赦されていること、赦しが与えられていることに目を留め、感謝をささげたいのです。

Ⅲ結論部

イエス様はペトロがイエス様を否定することはすでにご存知でした。ルカによる福音書 22章31節～32節で、「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」と言われました。サタンは弟子たちを、小麦のようにふるいにかけることを神に願い聞き入れられたのです。イエス様はペトロのイエス様に対する否定を御存じで、彼が困難に、誘惑に会わないようにではなく、信仰がなくならないように祈られたのです。そして、その祈りの通りに、ペトロはイエス様の愛によって、祈りによって、立ち直り、多くの人々を支えることができたのです。

ユダもペトロもイエス様を裏切りました。しかし、ユダは、自分の裏切りに関して、自分しか見ませんでした。イエス様を見ず、自分だけを見て絶望し、命を絶ちました。ペトロは鶏が鳴いた時、鶏が鳴く前に、3度イエス様を知らないというイエス様の言葉を思い出し、自分の弱さや失敗を知りつつも、なお、ペトロを愛して下さるイエス様を見つめることができたので、ペトロは立ち直り、人々を支えることができたのです。

私たちは、信仰生活や社会生活、家庭生活において、いろいろな弱さ、失敗を経験します。イエス様を信じるとは、失敗をしない事、罪を犯さないことを意味しません。神様を信じていても、失敗もし、罪を犯します。新型コロナウイルスに感染している人と接触したら感染するのです。特別な人ではありません。ペトロのように、イエス様の言葉よりも、「たとえ、みんながあなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません。」とか「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」と自分の力だけに頼るのではなく、イエス様の愛、十字架の愛と復活という神様の恵みに目を留めることです。自分の罪深さや人間のどうしようもない問題に目を留めるのではなく、神様の深い愛に全てをお委ねすることなのです。だからこそ、私たちは、日々、神様の言葉、聖書の言葉に触れて、神様の声を聞いて、従って歩みたいのです。この週も、新型コロナウイルス拡大の影響で、恐れや不安はありますが、イエス様の愛と恵みに目を留めて、全能なる神様に、復活のイエス様に、神のみ業の現れることを祈りつつ、歩ませていただきたいと思うのです。